東御市病院事業の充実と安定に向けた取り組み

～住み慣れた地域で安心して医療が受けられるまちづくりを目指して～

これまでの取り組みの経過

新公立病院改革プランは、総務省のガイドラインに基づき、公立病院がその経営環境や医療提供体制を維持し、今後も地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくために、四つの視点から改革を促すもので、東御市においても平成29年3月に策定しました。

昨年の市報とうみ10月号でもお知らせしたように、この改革プランの視点の一つである「再編・ネットワーク化」を推進するため、近隣の公立または公的医療機関と調整を行い、昨年7月に鹿教湯三才山リハビリテーションセンターとの間で協議が整いました。翌8月には「東御市民病院・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター連携協議会」を立ち上げ、医療や行政などの関係機関にも参画いただきながら検討を始めました。

この連携協議会の会長には田丸副市長、副会長にはJA厚生連牧島専務理事が就任し、委員には両組織の幹部職員のほか、有識者として長野県上田保健福祉事務所、小県医師会、上田市医師会、地域医療支援病院の信州上田医療センターからそれぞれの代表1名を加えた委員16名により、本年6月まで計16回の検討・協議を行ってきました。その中で、取り組みに対する一定の方向性が集約されたことを受け、「意見書」という形で6月19日に花岡市長とJA厚生連社浦理事長に提出しました。

▲連携協議会第1回会議（上田合同庁舎）

東御市民病院・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター連携協議会

検討部会
各病院の職場代表者15名で構成し、連携協議に関する具体的な検討を行いました。

▶

幹事会
検討部会員に各団体の病院長や幹部職員を加えた25名で構成し、検討部会の協議事項について連携協議会へ上程する内容の検討を行いました。

▶

連携協議会
各団体の理事者や幹部職員、および有識者の16名で構成し、幹事会で検討された事項について有識者の意見をお聴きし、両組織への意見書を作成しました。

▶ 両団体へ意見書を提出

団体名
東御市
JA長野厚生連

両病院の概要と市民病院の課題

鹿教湯三才山リハビリテーションセンターは、鹿教湯病院（一般病床123床と療養病床293床）と三才山病院（療養病床237床）の2病院のほか、豊殿診療所や老人保健施設「いずみの」からなる医療・介護の複合施設です。2病院ではそれぞれ、回復期リハビリテーションと、慢性期および指定療養介護を中心に医療から介護に至るシームレスな在宅サービスを提供するとともに、慢性期医療も提供しています。

東御市民病院は一般病床60床の病院で、内科・外科・整形外科を中心に、小児科・婦人科・眼科など多くの診療を提供しているほか、近隣の総合病院と連携し重症患者に対する支援や、人工透析、ドック健診なども行っています。

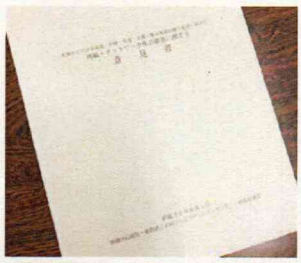
しかしながら、病床数が60床と極めて少なく経営資源に制約のある小規模病院でありながら、地域に密着した多機能性が求められています。そのため、入院に比べて診療収入が少ない外来患者比率が高く、また、診療収入の大きい手術件数が、病院の機能分化に伴う役割分担の面から減少傾向にあり、安定した経営基盤の確保と、それを支える常勤医師の確保が大きな課題となっています。

このような状況の中で、改革プラン及び長野県地域医療構想を踏まえながら、地域住民に身近で、より充実した医療を安定的に提供していくため、近隣の公立または公的医療機関との強い連携に取り組んでいくことが必要となっています。

再編・ネットワーク化への取り組み

「再編・ネットワーク化」は、地域において必要な医療提供体制の確保を図る上で、個別の公立病院の機能では限界があると見込まれる場合や、都道府県が策定した地域医療構想等の役割を踏まえ、医療機能の見直しを検討することが必要な場合などにおいて、今般の改革プラン策定のタイミングを捉え充分な検討が求められています。

市民病院では、上小医療圏における回復期や慢性期に係る病床機能の地域偏在（鹿教湯病院と三才山病院に集中）を解消し地域住民の利便性の向上を図るとともに、市の病院事業全体の基盤強化と効率化を推進するため、医療法の病床過剰地域における増床の特例措置を用いて整備が進められるよう鹿教湯三才山リハビリテーションセンターとの再編・ネットワーク化に取り組んでいます。



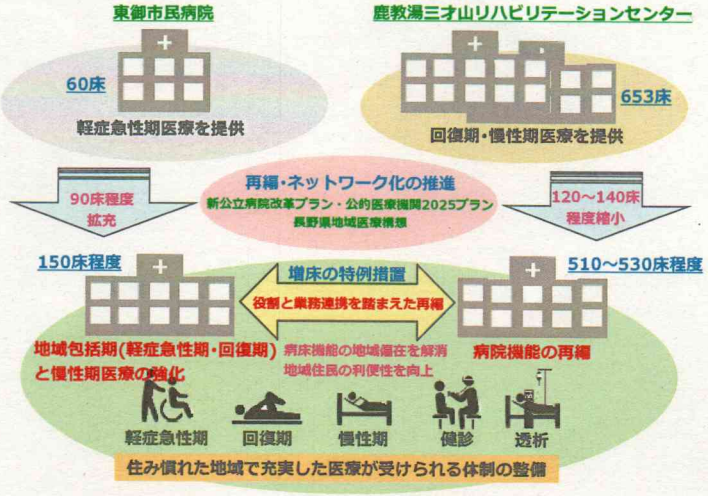
▲再編・ネットワーク化の推進に関する意見書

▲写真左からJA厚生連牧島専務理事、社浦理事長、花岡市長、田丸会長（副市長）

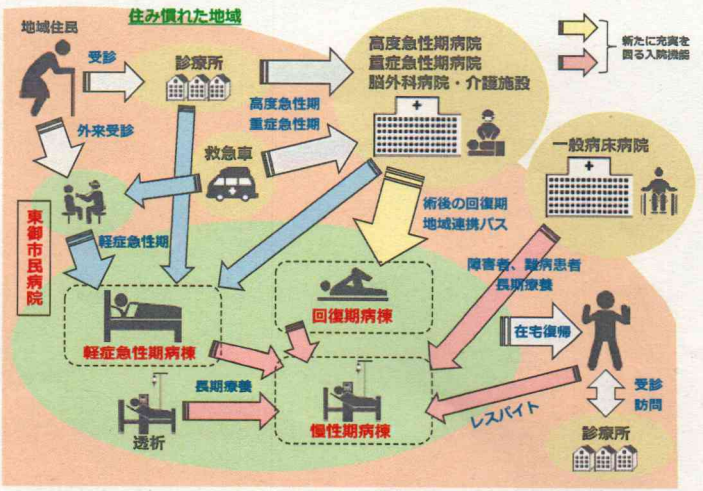
回復期リハビリ機能と慢性期療養型医療の充実

連携協議会で集約した「意見書」によると、東御市民病院においては、今後ますます需要が増大する地域包括期（軽症急性期・回復期）や慢性期に係る医療機能の充実を図るため90床程度の増床を検討し、市民にとってより身近で利便性の高い病院体制を構築すること、鹿教湯三才山リハビリテーションセンターにおいては、上小圏域以外からの流入患者の減少見込みと、立地条件が高齢化による移動手段の減退に伴い地理的利便性に欠ける状況にあることから、120～140床程度の減床を検討することとしており、市としては、リハビリと療養に係る鹿教湯ブランドを身近な地域で提供できる可能性に期待しています。

また、この意見書には、今後も地元開業医との連携強化に努め役割分担を明確にすることや、関係者の間では慎重な姿勢もあることから、規模や機能などについては適宜適切な連携を図りながら今後の事業推進にあたることなど、四項目の付帯事項が付されています。



▲両病院群における病院機能の再編と拡充のイメージ



▲回復期と慢性期を拡充した新たな東御市民病院（緑色の部分）のイメージ

なお、この取り組みに関しては、長野県上田保健福祉事務所が事務局を務める「上小医療圏地域医療構想調整会議」で協議を行い合意を図ることとされているため、9月4日開催の会議で中間報告を行いました。その内容が新聞報道されたところで、今後も市民の皆さまへ適切に進捗状況をお知らせするとともに、医師会を中心とする医療関係機関等への合意形成に取り組んでまいります。

●問い合わせ先
市民病院　庶務係
☎62－0050